

第34回マリンボールカップ女子 Bゾーン決勝 8月4日(日)

ひかりが丘少女バスケットボール部 (横浜中部) 47 VS 22 永田台ビバーズ (横浜南部)



- Q1 両者共に、ゾーンディフェンスでのスタート
開始早々ひかりが丘 #10 のゴール下が決まり先制する。永田台は #4 を中心にパス回しでいくが、なかなか中を上手く攻める事が出来ず苦しいシュートとなる。
ひかりが丘は、速攻・ゴール下のシュートが決まり得点を重ね、15 対 3 で 1Q を終了。
- Q2 ひかりが丘は、オールコートマンツーマンに対し永田台は、ゾーンディフェンスでスタート。開始早々、1Q とは一転し永田台 #4、#6 と連続得点を重ね、ひかりが丘たまたまタイムアウトを取る。タイムアウト後永田台 #5 のジャンプシュートと反撃を緩めないが、ひかりが丘 #5 の得点を重ね一進一退の攻防が続き 22 対 13 で、ひかりが丘リードで 2Q を終了。
- Q3 両者共に、ゾーンディフェンスでスタート。開始早々ひかりが丘 #4 のジャンプシュートが決まり更に点差が広がる。永田台もディフェンスに粘りを見せ、両者得点が無い時間が続き、残り 3 分 30 秒で永田台 #6 の外角シュート、フリースローで追い上げるが、ひかりが丘 #6、#8 のゴール下でのパスが入り高さで得点を重ね、ひかりが丘のペースのまま 29 対 16 で 3Q を終了。
- Q4 3Q の流れのまま、ひかりが丘のペースで試合がスタート堪らず開始 1 分で永田台のタイムアウト。再開後オールコートプレスで永田台 #4、#5、#6 と連続得点を重ね、永田台のペースになってきたがひかりが丘 #4 の落ち着いた早いパス回しからの #8 のゴール下シュート。更にプレスに対してのパスランで徐々に点差が広がり始め、47 対 22 で試合終了。
最後まで諦めず戦いに挑んだ両チームの選手を讃えたい。